

聖書日課 『からし種』 2025.3.23-3.30

<p>3月23日 (日) マルコ 11章</p>	<p>「立って祈るとき、だれかに対して何か恨みに思うことがあれば、赦してあげなさい」(25節)。少しも疑わず、信じたとおりにになると信じて祈れ」と「山を動かす信仰」を求めつつ、続けて「恨みに思う者を赦せ」と教えられる主。「赦し」は私たちにとって一番難しいこと。その「山」が動かされることと真剣に向かい合わずして、十字架の赦しの深さは分からないのだろう。</p>
<p>24日 (月) マルコ 12章</p>	<p>「神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神」(27節)。「その女は誰の妻になるのか？」という問いは「女は男のもの」という男中心主義の問い。主イエスはその問いに応えず、アブラハム、イサク、ヤコブに「あなたはわたしのもの、わたしはあなたの神」と語りかける神を示された。この愛の神の言葉が響く神の国に、人間の上下関係を持ち込む隙間はない。</p>
<p>25日 (火) マルコ 13章</p>	<p>「人に惑わされないように気をつけなさい」(5節)。この世界には人の言葉なのか神の言葉なのか、判断しがたい言葉があふれている。私たちは外見の魅力に心惹かれ、声高に語られる脅しに簡単に心をかからめとられてしまう。そんな私たちに神は「真理」を示された。「十字架の道に真実の愛をあらわされた方」を。だから迷ったときには十字架を見上げよう。</p>
<p>26日 (水) マルコ 14章</p>	<p>「アッパ、父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかし…御心に適うことが行われますように」(36節)。「御心になること」はクリスマスの夜に天使が歌った賛美であり、主イエスが弟子たちに日々祈れと教えられた祈りである。いろいろな願いごとを抱えた私たちだからこそ、日々この祈りに立ち帰り、祈る者とされたい。</p>

大井バプテスト教会

メール配信登録メール senforn.obc@gmail.com

聖書日課 『からし種』 2025.3.23—3.30

<p>27日 (木)</p> <p>マルコ 15章</p>	<p>「マグダラのマリアとヨセの母マリアとは、イエスの遺体を納めた場所を見つめていた」(47節)。大多数が十字架で「すべては終わった」と下を向いた時に、どうしても諦めきれない女性たちがいた。「これでは終わらない。必ずここから何かが始まる」。主イエスに従ってきた女性たちは祈りながら墓を見つめていたはず…と、朝祈禱会参加の女性が教えてくれた。</p>
<p>28日 (金)</p> <p>マルコ 16章</p>	<p>「さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あなたの方が、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる』」(7節)。これまで主イエスに従って来た感動も喜びも誇りもすべてが砕け散り、敗残兵のように故郷のガリラヤに帰る他なかった弟子たちの足取りは重たいものだったことだろう。しかし私たちに先立つ主の恵みは惨めな歩みを希望の命の歩みに変えてくださる。</p>
<p>29日 (土)</p> <p>ルカ 1章</p>	<p>「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む」(35節)。こちらの都合にお構いなく届けられた神の突然の召しにマリアは驚き恐れた。それは彼女の命を危険にさらす「律法的リスク」を引き受ける道だったから。しかし私たちが自分自身の力に頼むのではなく「いと高き方の力に包まれて歩む幸い」を天使は告げる。マリアの賛美を私たちも受けていこう。</p>
<p>30日 (日)</p> <p>ルカ 2章</p>	<p>「そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた」(16節)。素晴らしい主の誕生の知らせは、羊飼いたちに示された。ヨハネはイエスを『神の小羊』と呼んだが、神殿での贖罪の羊を飼っていた羊飼いにこの知らせが届く。羊飼いたちはこれらの見たことを人々に知らせた。私たちも福音を知らせたい。</p>